



巨大化したヒヨコの玩具、引力カタカタ・真庭

全国建具展示会・ユニーク作品集誌上展示

木工技術を活用して新ジャンルを開拓 若手建築士の感性や技術者の工夫が結実

第51回全国建具展示会・全国建具フェアが6月17日と18日の2日間、石川県金沢市の石川県産業展示館4号館で開催された。

今回は全国から合計123点の作品が寄せられ、多彩な木製品で会場が彩られた。組子細工を駆使した工芸的な作品など、木工の技能を絵画的に表現する作品も多かったが、ここでは伝統的な作品以外に注目を集めた作品を紹介する。

若手建築士コラボ作品

新進気鋭の若手建築士と建具技能士による共作。建築士の発想を技能士が具現化する企画展示において、様々な作品が登場した。以下に各作品の名称、製作者、素材、特徴を記す。

■「折り鶴」(デザイン・毛利公茂 製作・中島町建具工業協同組合)
素材・シナの突板、ウォールナット突板

コンセプトは屏風・折り紙・建具であり680mmと800mmの辺で構成される。空間を間仕切る建具を双方の関係を断つのではなく、緩く結んだり籠ったりできる空間にする。

若手建築士コラボ作品シリーズ



右から「折り鶴」・「積層建具」・「MUKU FRAMES」・「ハレの簾とケの障子」

0度、45度、90度の角度に変形することで用途が変化。居場所を作る、居場所を仕切る、居場所を眺めるなど多様なあり方を提案した。

■「積層建具」(デザイン・山本純平 製作・南蔵木工所)

素材・檜、タモ

正倉院など積層の建築は日本の伝統であるが、最新の技術でもある。木材とガラスを積層させることで現代的な積層のあり方を模索。節のある無垢材と奥行き26mmの積層ガラスという普段は使用することのない素材を積み上げて金物によってつなぎ合わせた。見た目は単純であるが、普通の建具に比べ数倍の仕口が必要になる。

■「MUKU FRAMES」(デザイン・岸田陽介 製作・榎石森木工)

素材・能登ヒバ、突板

旧来の工業的なガラスに対し、天然素材の風味を活かした摺りガラス屏のデザイン。着想は飽くずなどの建築廃材を再利用するところから得ている。突板の樹種を交えることで光の入射に変化を加え、明障子の機

能に表情を加味。0・1mm厚、9種類の突板が挟まれた1枚の合わせガラスは突板の配列に合わせて一発で仕上げられている。

■「ハレの簾とケの障子」(デザイン・福井竜馬 製作・榎松田製作所)

素材・杉、簾

ハレの簾とケの障子を用いて金沢の伝統を表現。簾には金沢で長年親しまれている加賀五彩を配し、華やかさを表す。一方、内側はケの障子によってフィルターとなる。障子紙には落水紙を採用。雪見障子の構造は2層の障子と2層の簾による4層構造となっており、4層のレイヤーをそれぞれ開け閉めすることで様々な見え方に変化する。

■「KURUMOKU LIGHT」(デザイン・北口貴是 製作・榎石森木工)

素材・ナラ、杉、ヒバ、クルミ

光をテーマにした木製照明器具。光に触れ合う実験的な作品となった。手で四角い木箱の中にある小さな木のキューブを回転させると、アナログ的な調光や光の表情の変化が